ＥＸＥ－ｉ グローバル中小型株式ファンド

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第６期（決算日2019年５月13日）

作成対象期間（2018年５月15日～2019年５月13日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「ＥＸＥ－ｉ グローバル中小型株式ファンド」は、2019年５月13日に第６期決算を行いました。

当ファンドは、主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第６期末（2019年５月13日）	
基準価額	15,895円
純資産総額	6,082百万円
第６期	
騰落率	△4.6%
分配金（税込み）合計	0円

（注１）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
（注２）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注３）当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記ＳＢＩアセットマネジメントのＵＲＬにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒「目論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

SBI Asset Management

ＳＢＩアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1
お問い合わせ先
電話番号 03-6229-0097
受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

ＳＢＩアセットマネジメント
URL:http://www.sbiam.co.jp/
ＥＸＥ－ｉ 専用Ｗｅｂサイト
URL:http://www.sbiam.co.jp/EXE-i/
ＥＸＥ－ｉ Facebookページ
URL:https://www.facebook.com/sbiamexei/

運用経過

基準価額等の推移

（2018年５月15日～2019年５月13日）

期　首：16,661円
期　末：15,895円（既払分配金（税込み）：0円）
騰落率：　△4.6％

（注１）参考指標は2015年１月まではMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス・スモールキャップ（米ドルベース）を、2015年２月からはFTSEグローバル スモール・キャップ インデックス（米ドルベース）を委託会社で円換算しています。詳細はP12をご参照ください。
（注２）参考指標は、2018年５月14日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。
（注３）当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

米国の利上げペースの鈍化観測や堅調な米国景気、外国為替相場における円安進行などが上昇要因となりました。

下落要因

政治リスクの台頭や米国債券市場における逆イールド（長短金利の逆転）現象の発生、世界的な通商問題、外国為替相場における円高進行などが下落要因となりました。

１万口当たりの費用明細

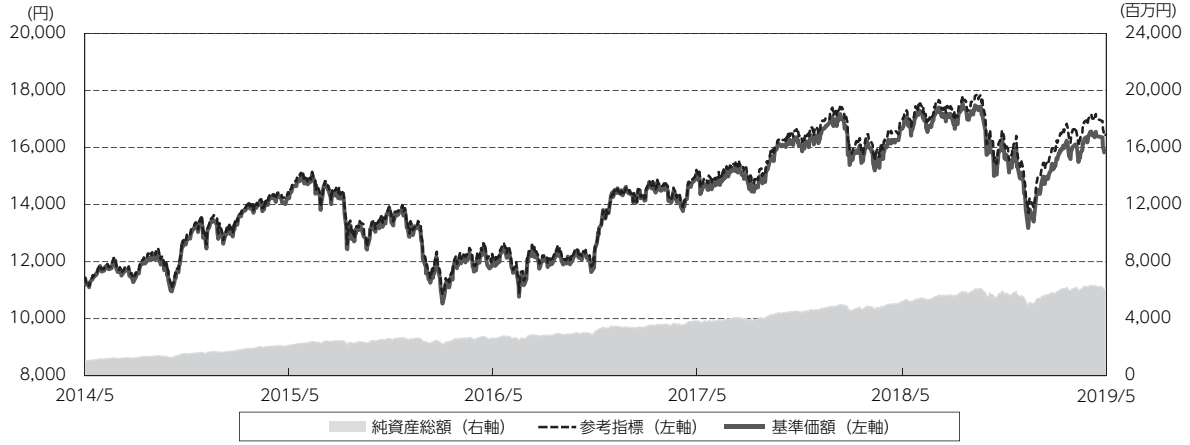
（2018年５月15日～2019年５月13日）

項目	当期 金額	当期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) 信託報酬	40	0.248	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(17)	(0.108)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(17)	(0.108)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(5)	(0.032)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	10	0.063	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（投資信託証券）	(10)	(0.063)	
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（投資信託証券）	(0)	(0.001)	
(d) その他費用	3	0.017	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(2)	(0.013)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合計	53	0.329	
期中の平均基準価額は、16,108円です。			

（注１）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注２）消費税は報告日の税率を採用しています。
（注３）項目ごとに円未満は四捨五入しております。
（注４）各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。
（注５）各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

最近５年間の基準価額等の推移

（2014年５月12日～2019年５月13日）



（注）当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

	2014年５月12日 決算日	2015年５月12日 決算日	2016年５月12日 決算日	2017年５月12日 決算日	2018年５月14日 決算日	2019年５月13日 決算日
基準価額　(円)	11,327	14,289	11,954	14,968	16,661	15,895
期間分配金合計（税込み）　(円)	0	0	0	0	0	0
基準価額騰落率　(%)	13.3	26.1	△ 16.3	25.2	11.3	△ 4.6
参考指標騰落率　(%)	15.7	27.5	△ 15.9	24.6	12.1	△ 3.0
純資産総額　(百万円)	1,062	2,133	2,641	3,830	5,191	6,082

（注１）参考指標は2015年１月まではMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス・スモールキャップ（米ドルベース）を、2015年２月からはFTSE グローバル スモール・キャップ インデックス（米ドルベース）を委託会社で円換算しています。詳細はP12をご参照ください。
（注２）参考指標の騰落率は、ETF購入後の2013年５月14日の値から計算しています。
（注３）参考指標は、2014年５月12日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。
（注４）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注５）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。ただし、2014年５月12日の騰落率は設定当初との比較です。

投資環境

（2018年５月15日～2019年５月13日）

＜中小型株式市場＞

期首から2018年９月にかけては、米中両国間における通商問題による景気減速懸念等が株式市場の上値を抑える一方、米中通商問題の解決に前向きな姿勢を示したことを好感するなど、一進一退を繰り返しながらも上昇基調を維持しました。一方、欧州株式市場では米国の保護主義的な通商政策による世界経済への悪影響に対する懸念が広がったほか、先行きが不透明なイタリアの政治情勢等も投資家のリスクを回避する動きにつながり、軟調な展開が続きました。

期の半ばは、それまで堅調な推移を見せていた米国株式市場も調整局面を迎え、世界の株式市場にも波及しました。米長期金利の急騰が意識されたほか、米中通商問題の長期化懸念等が主な下落要因となりました。欧州株式市場ではイタリアの財政問題に対する先行き不透明感や、英国の欧州連合（EU）離脱なども悪材料視され、急速な調整局面を迎えました。その後、年末には米国株式市場は米企業の良好な決算発表等を手掛かりに反発する局面もみられた一方、米国債券市場において長期金利が短期金利よりも低くなる逆イールド現象が発生し、景気後退への懸念が世界中に広がり急落しました。

年明け以降は米中通商問題の緩和への期待感や良好な雇用統計を手掛かりに米国株式市場が反発し、各国とも追随する展開となりました。その後も米連邦準備制度理事会（FRB）による金融政策で柔軟な姿勢が示されたほか、米中通商問題の進展期待等を手掛かりに上昇基調が続きました。しかし、期末には米国が中国に対して追加関税を決定したことから、再び調整局面を迎えました。

＜為替＞

ドル／円相場は、期首109円台前半でスタートした後、一進一退を繰り返しながら年末にかけて円安・ドル高が進行しました。米中通商問題に対する懸念の高まりや、米朝首脳会談の延期、中国高官による人民元安への口先介入などにより円高・ドル安方向に動く局面もみられたものの、北朝鮮の地政学リスクの後退、良好な米国経済指標の発表、米国の中間選挙が事前の予想通りとなったことなどを背景に、ドル買いが優勢となり114円台まで円安が進行しました。

しかしながら、その後はFRBによる利上げ観測の後退とともに、米連邦公開市場委員会（FOMC）による2019年の利上げ見通しが年２回に引き下げられたことでドル売りが優勢となりました。また、世界的な株安進行と米国政府機関の一部閉鎖により円高・ドル安が続き、109円半ばの水準まで円高が進行しました。

年始には円が急騰したものの、その後はパウエルFRB議長の発言により、円安が進行する展開となりました。ドル／円相場が110円台まで水準を戻すと、中国の貿易統計やFRBによる金融政策動向を背景に、109円～112円の比較的広いレンジで推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2018年５月15日～2019年５月13日）

モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言に基づいた基本投資割合に従い、ETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資を行いました。投資比率の合計は95％以上の高位を保ちました。

なお、2019年２月より当ファンドの投資対象ファンドを以下のとおり変更いたしました。

（変更前）

・シュワブ　U.S.スモールキャップ　ETF

・バンガード・FTSE・オールワールド（除く米国）スモールキャップETF

（変更後）

・バンガード・スモールキャップ　ETF

・バンガード・FTSE・オールワールド（除く米国）スモールキャップETF

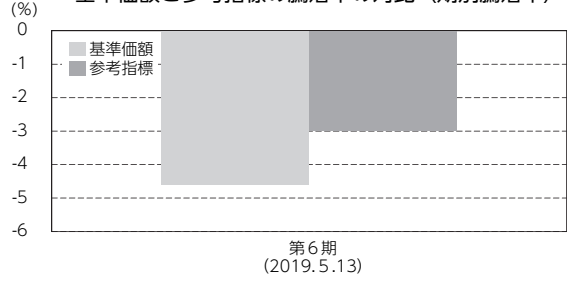
当ファンドのベンチマークとの差異

（2018年５月15日～2019年５月13日）

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

右記のグラフは、基準価額と参考指標の騰落率の対比です。

基準価額と参考指標の騰落率の対比（期別騰落率）



（注）参考指標はFTSEグローバル スモール・キャップ インデックス（円換算ベース）を使用しています。
詳細はP12をご参照ください。

分配金

（2018年５月15日～2019年５月13日）

当期は基準価額等を勘案した結果、収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、１万口当たり、税込み）

項　　目	第６期 2018年５月15日～ 2019年５月13日
当期分配金	－
(対基準価額比率)	－％
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	6,026

（注１）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注２）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資し、世界（日本を含む）の中小型株式市場の値動きと同等の投資成果をめざします。当ファンドの運用にあたっては、モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言を受け、原則として年１回基本投資割合の見直しを行います。

お知らせ

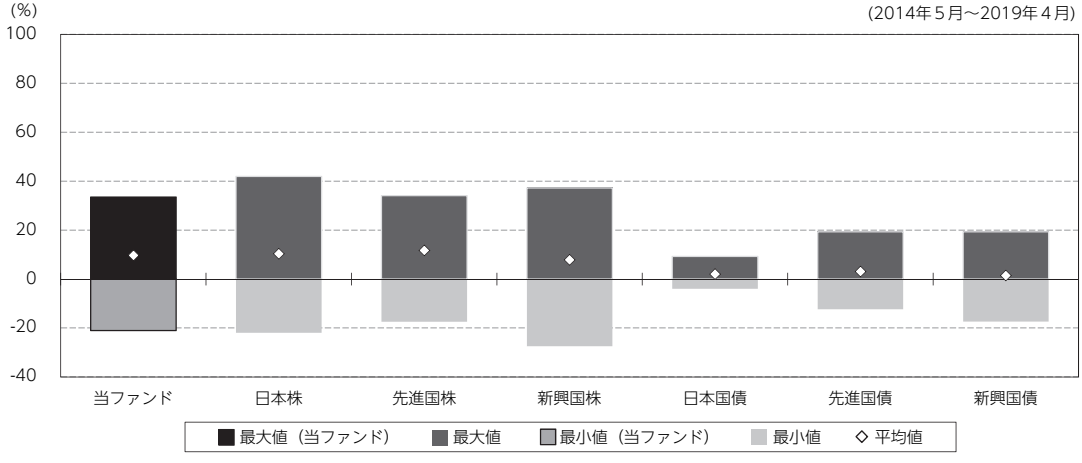
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	無期限（2013年５月13日設定）
運用方針	・主として世界（日本を含む）の中小型株式市場の値動きに連動する投資対象ファンドを複数組合せることにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。 ・参考指標は、FTSEグローバル スモール・キャップ インデックス（円換算ベース）とします。（2019年５月13日現在） ・市場の変動により、投資対象ファンドの組入比率が基本投資割合から乖離した場合は、原則として３カ月に１回、基本投資割合へ戻す調整を行います。 ・基本投資割合の見直しについては、投資対象ファンドの経費率、パフォーマンス、参考指標との連動性、流動性等を考慮して、原則として１年に１回行います。 ・当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行い、実質的な運用は投資信託証券への投資を通じて行います。 ・当ファンドの運用にあたっては、「モーニングスター・アセット・マネジメント株式会社」の投資助言を受けます。
主要投資対象	主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資します。
運用方法	主として世界（日本を含む）の中小型株式市場の値動きに連動する投資対象ファンドを複数組合わせることにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。
分配方針	毎決算時（年１回毎年５月12日。休業日の場合は翌営業日とします。）に、分配方針に基づき分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とし、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：％）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	33.5	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 21.0	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	9.6	10.4	11.7	7.8	2.0	3.1	1.4

（注１）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注２）2014年５月から2019年４月の５年間の各月末における直近１年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
（注３）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日 本 株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
先進国株：MSCI － KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）
新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
日本国債：NOMURA － BPI国債
先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P12の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

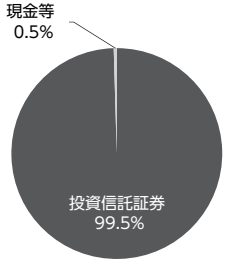
（2019年５月13日現在）

○組入上位ファンド

銘　　柄　　名	第６期末
	%
バンガード・スモールキャップ　ETF	59.5
バンガード・FTSE・オールワールド（除く米国）スモールキャップETF	40.0
組入銘柄数	2銘柄

（注１）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
（注２）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

○資産別配分



○国別配分

○通貨別配分

（注１）資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。
（注２）国別配分は組入投資信託証券の株式評価額に対する比率です。
（注３）国別配分は発行国を表示しております。
（注４）通貨別配分は組入投資信託証券の株式評価額に対する比率です。

純資産等

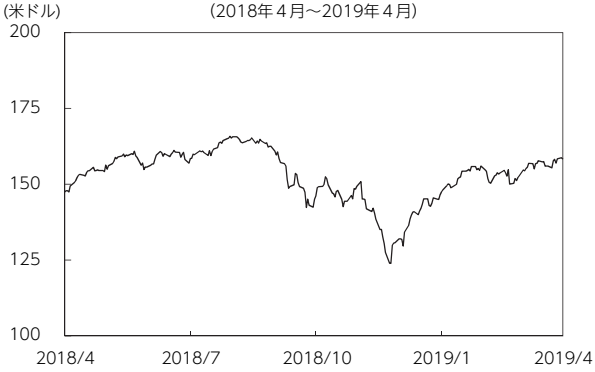
項　　目	第６期末
	2019年５月13日
純　資　産　総　額	6,082,557,700円
受　益　権　総　口　数	3,826,702,675口
１万口当たり基準価額	15,895円

（注）期中における追加設定元本額は1,554,179,265円、同解約元本額は843,189,174円です。

組入上位ファンドの概要

バンガード・スモールキャップ　ETF

【基準価額の推移】



【組入上位10銘柄】

(2019年４月末現在)

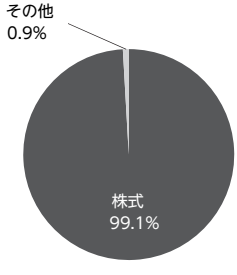
	銘　柄　名	比率
		%
1	Exact Sciences Corp.	0.35
2	IDEX Corp.	0.34
3	Atmos Energy Corp.	0.34
4	Burlington Stores Inc.	0.32
5	Zebra Technologies Corp.	0.32
6	STERIS plc	0.31
7	Leidos Holdings Inc.	0.30
8	MarketAxess Holdings Inc.	0.30
9	PerkinElmer Inc.	0.30
10	Lennox International Inc.	0.29
組入銘柄数		1,378銘柄

（注）比率は純資産総額に対する割合です。

【１万口当たりの費用明細】

入手可能な１万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

【資産別配分】



【国別配分】

【通貨別配分】

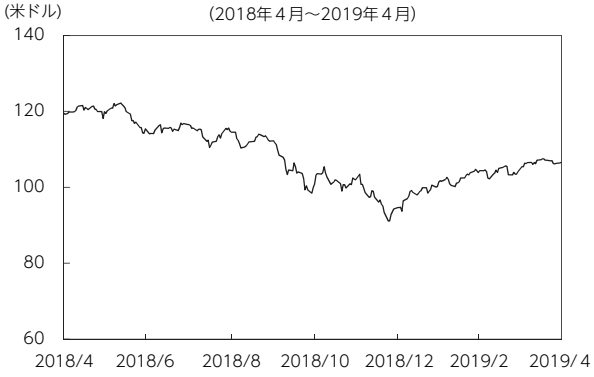
（注１）資産別・国別・通貨別のデータは2019年４月30日現在のものです。
（注２）資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。
（注３）国別配分は株式評価額に対する比率です。
（注４）国別配分は発行国を表示しております。

※Bloomberg及びThe Vanguard Group,Inc.のデータを基にＳＢＩアセットマネジメントが作成

バンガード・FTSE・オールワールド（除く米国）スモールキャップETF

【基準価額の推移】

（2018年４月～2019年４月）



【組入上位10銘柄】

（2019年４月末現在）

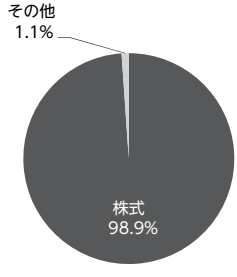
	銘　柄　名	比率
		%
1	Open Text Corp.	0.4
2	Canopy Growth Corp.	0.4
3	Gildan Activewear Inc.	0.3
4	Aurora Cannabis Inc.	0.3
5	First Quantum Minerals Ltd.	0.3
6	CAE Inc.	0.3
7	CCL Industries Inc. Class B	0.3
8	Kirkland Lake Gold Ltd.	0.3
9	WSP Global Inc.	0.2
10	Algonquin Power & Utilities Corp.	0.2
	組入銘柄数	3,586銘柄

（注）比率は純資産総額に対する割合です。

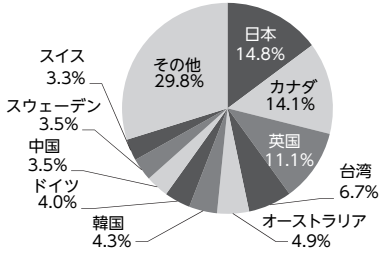
【１万口当たりの費用明細】

入手可能な１万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

（注１）資産別・国別・通貨別のデータは2019年４月30日現在のものです。
（注２）資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。
（注３）国別配分は株式評価額に対する比率です。
（注４）国別配分は発行国を表示しております。

※Bloomberg及びThe Vanguard Group,Inc.のデータを基にＳＢＩアセットマネジメントが作成

＜当ファンドの参考指標について＞

参考指標は2015年１月まではMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス・スモールキャップ（米ドルベース）を、2015年２月からはFTSEグローバル スモール・キャップ インデックス（米ドルベース）を委託会社で円換算しています。

○FTSEグローバル スモール・キャップ インデックス
FTSEグローバル スモール・キャップ インデックスとは、FTSE社が開発した指数で世界の中小型株式市場全体の動きを表す指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はFTSE社に帰属します。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI － KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）
MSCI － KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA － BPI国債
NOMURA － BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA － BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）
JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス － エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス － エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. MorganSecurities LLCに帰属します。

ＥＸＥ－ｉシリーズ専用サイトのご案内

投資者の皆様に向けて、様々なコンテンツをご用意しています

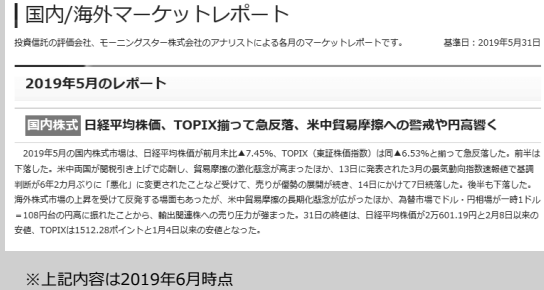
エグゼアイ　**検索**

「エグゼアイ」で検索いただくと専用サイトへ
アクセスできます
（「EXE-i」での検索でも可能です）

日々の基準価額や純資産総額、及びファンドの詳細ページへのリンクを掲載

月次マーケットレポート

当ファンドの助言会社でもあるモーニングスター社のアナリストによるマーケットレポートを毎月更新



国内/海外マーケットレポート

投資信託の評価会社、モーニングスター株式会社のアナリストによる各月のマーケットレポートです。　基準日：2019年5月31日

2019年5月のレポート

国内株式 日経平均株価、TOPIX揃って急反落、米中貿易摩擦への警戒や円高嫌

2019年5月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比▲7.45%、TOPIX（東証株価指数）は同▲6.53%と揃って急反落した。前半は下落した。米中両国が関税引き上げで応酬し、貿易摩擦の激化懸念が高まったほか、13日に発表された3月の景気動向指数速報値で基調判断が6年2カ月ぶりに「悪化」に変更されたことなど受けて、売りが優勢の展開が続き、14日にかけて7日続落した。後半も下落した。海外株式市場の上昇を受けて反発する場面もあったが、米中貿易摩擦の長期化懸念が広がったほか、為替市場でドル・円相場が一時1ドル＝108円台の円高に振れたことから、輸出関連株への売り圧力が強まった。31日の終値は、日経平均株価が2万601.19円と2月8日以来の安値、TOPIXは1512.28ポイントと1月4日以来の安値となった。

インデックスファンドによろしく

漫画「ブラックジャックによろしく」のイラストを用いてEXE-iについて解説した漫画コンテンツ

※上記内容は2019年6月時点